

キャリア科目の学びを就職活動につなげる授業実践 —短期大学1年生を対象として—

遠山 敦子

松山東雲短期大学 現代ビジネス学科

1. はじめに

短期大学生の就職活動は「卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降」（内閣官房，2024）、つまり2年次進級前の春休み中からスタートする。そのため筆者は、担当するキャリア教育科目2科目において、1年次の終了時に「就職活動の準備ができている状態¹」になっていることを目指して2024年度から内容の充実を図り実践することとした。

本発表はその実践内容について整理し、結果を考察することで、今後の授業改善に役立てることを目的としている。なお、本発表は、遠山(2024a)及び遠山(2024b)で報告した2024年度前期科目「女性とキャリアデザイン」での実践に、2024年度後期科目「女性とキャリア開発」での実践内容を追加して報告するものである。

表1 本学科1年次のキャリア教育科目

	必修科目	選択科目
前期	女性とキャリアデザイン	ビジネスインターシップⅠ
後期	女性とキャリア開発	ビジネスインターシップⅡ

2. 授業の概要と実施内容

本学科のキャリア教育科目の構成は、表1の通りである。本実践では、1年次の必修科目「女性とキャリアデザイン」（前期）、「女性とキャリア開発」（後期）の2科目を実践対象とした。なお、2024年度からの変更として、授業時間を15時間（8回）から30時間（15回）に増やしたことで、授業内で使用するワークシートを保管しておけるようフラットファイルを活用したことの2点

については両科目に共通する。

(1) 「女性とキャリアデザイン」

キャリア形成の基盤となる自己理解を中心として、基本のビジネスマナーや仕事理解などの内容とした（表2）。また、自己理解に関するワークを体系立てて実施するために「ジョブ・カード活用ガイド（就業経験のない方 学卒者等向け）」（厚生労働省 人材開発統括官）を活用した（表2内の下線部分）。

表2 「女性とキャリアデザイン」授業内容

回	実施内容
1	イントロダクション
2	マイナビ2026登録、キャリアデザインツール「MACTH plus」 ² 受検
3	仕事理解①、ビジネスマナー① 「業界」と「職種」について、身だしなみ・あいさつ・感謝
4	「キャリアデザイン」とは 「自己理解」とは、時間の使い方
5	<u>自己理解①</u> ライフラインチャート
6	<u>自己理解②</u> 価値観理解
7	ビジネスマナー②、 <u>自己理解③</u> 興味関心
8	仕事理解②、ビジネスマナー③
9	<u>自己理解④</u> 強みを知る
10	社会人に求められるスキルとは何か
11	ビジネスマナー④ 「報告」「連絡」「相談」のコツ、組織とは
12	ビジネスマナー⑤、仕事理解③ 情報の伝え方・ロジカルコミュニケーション、「職種」と「業種」
13	仕事理解④「職種」と「業種」続き

14	2年生にきいてみよう
15	まとめ：全体振り返り、最終レポート

(2) 「女性とキャリア開発」

仕事理解に重点を置き、卒業生のお話を聴く機会や、実際の企業情報を調べる課題や、企業への応募を想定したワークなどを行う。さらに、就職活動に必要な具体的なスキルの獲得ができるよう、キャリア支援課と連携したプログラムを取り入れて実施する(表3)。なお、本稿作成時点で第5回までは実施済、第6回以降は予定している内容を記載した。

表3 「女性とキャリア開発」授業内容

回	実施内容
1	イントロダクション
2	夏休み中の課題(企業調べ2社)の解説
3	企業へ応募について考える(夏休み中の課題を活用)
4	OGガイダンス(卒業生のお話を聴く)
5	企業研究セミナー(※)
6	筆記試験対策講座(※)
7	「就職活動」とは何か
8	「公務員セミナー」or「面接練習」(※)
9	「就職活動」まとめ
10	空港の仕事を知る①(※)
11	空港の仕事を知る②(※)
12	応募企業を見つけよう
13	スーツ着こなし講座(※)
14	模擬面接
15	合同説明会のまわり方(※)
	最終レポート提出

※印はキャリア支援課プログラムとの連携による

3. 実践結果と考察

1年前期科目「女性とキャリアデザイン」の第15回で実施した最終レポートにおいて、強みに

¹ 本実践では「就職活動の準備ができていない状態」について、①応募したい企業が見つけれられること、②応募書類が準備できること、の2つと定義する。

関する設問を設定したところ、提出者32名全員が自身の強みを2つ記載し、そのうち7名は3つ以上記載した。就職活動の応募書類における「自己アピール」欄に強みについて記載することを考慮すると、本実践により一定の効果があつたと言える。一方、前期終了時点で、約半数が「卒業後の進路が決まっていない」と回答しており、本実践の目的である「1年後期終了時点で就職活動に向けた準備ができていない状態」となるためには、「女性とキャリア開発」で、いかに企業理解が促進されるか重要となる。なお「女性とキャリア開発」での具体的な実践内容と結果についてはポスターセッションにて報告する。

4. 今後の展望と課題

本実践は、1年次の終了時に「就職活動の準備ができていない状態」になっていることを目指すものであるが、短期大学でのキャリア教育科目の内容が就職活動に直結しすぎることには疑問も感じている。その一方で、早期に就職先を決めた学生は、2年次での学習や諸活動への参加意欲が高くなる印象も受ける。今後は、就職活動への不安を軽減し、具体的な就職後のイメージを持つことが、短期大学生の学びにどのような影響を与えるかについても解明していきたい。

参考文献

- 遠山敦子(2024a),短期大学でのキャリア教育科目を就職活動につなげる授業実践―「ジョブ・カード活用ガイド」に注目して―SPODフォーラム2024ポスターセッション
- 遠山敦子(2024b),短期大学でのキャリア教育科目を就職活動につなげる授業実践―「ジョブ・カード活用ガイド」に注目して―日本キャリアデザイン学会 第20回研究大会・総会(2024年度大会)資料集, 217-221
- 内閣官房(2024)「2025年(令和7)年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請」

² キャリアデザインツール「適性診断 MATCH plus」は、株式会社マイナビが提供する適性診断ツール